

議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	平成29年1月12日(木) 19:00～21:00
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	埴淵会長、寺嶋部会長、武知委員、多田委員、片岡委員、郷委員、渡辺委員 町田委員、片山委員、藤原委員、八木委員、郡委員、鎌村委員、福川委員、 東山委員、荒瀬委員、答島委員(平田) (緩和ケア対策小委員会)三木氏 ※ () は代理出席者〔敬称略〕
欠席者	安藤委員、山村委員、勝瀬委員、武田委員、豊田委員、川崎委員
陪席	徳島大学病院：尾形副看護師長、阿部主任、宮越事務補佐員 徳島県保健福祉部：平田課長補佐、白井主事 徳島県医師会：大門事務員、玉木事務員
議 題	<p>寺嶋部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会（徳島県医師会がん対策推進委員会緩和ケア対策小委員会を兼ねる）が開催された。</p> <p>会議にあたり、埴淵徳島県がん診療連携協議会会長と八木徳島県医師会がん対策推進委員会緩和ケア対策小委員会委員長から開会の挨拶があった。</p> <p>【報告事項】</p> <p>○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会</p> <p>寺嶋部会長から、平成28年12月12日に国立がん研究センターで開催された「平成28年度第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、配付資料に基づき次のとおり報告があった。</p> <p>(議題1) 緩和ケアに関する連絡事項があった。今後の国のがん対策基本法等について説明があった。後日、内容はホームページに掲載される予定である。</p> <p>(議題2) 院内緩和ケアの質の向上に関する取り組みについて、他病院での取り組みの紹介があった。</p> <p>(議題3) 都道府県の緩和ケアに関する質の向上に関する取り組み紹介があった。</p> <p>(議題4) 緩和ケアチーム(指導者)研修会について案内があった。</p> <p>(議題5) 緩和ケアの地域連携調整員の研修について案内があった。</p> <p>寺嶋部会長から、今回の都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会では、PDCAサイクルの確保に関する取り組みが大半を占めていたとの報告があった。続けて、緩和ケアの地域連携調整員の研修に各病院から参加する予定があるかとの質問があった。</p> <p>徳島大学病院阿部主任から、徳島大学病院からMSWと看護師2名が参加する予定であるとの回答があった。</p> <p>○各病院の現状報告</p> <p>各委員から各施設の現状報告があった。</p>

(徳島大学病院 武知委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームで頑張っており、緩和ケア診療加算も算定をしている。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：緩和ケア診療加算は算定していない。スクリーニングシートについては、化学療法室で配布を行い専門チームへの相談を依頼するとの記入があれば介入を行うようにしている。介入については毎月1~2件程度行っている。

寺嶋部会長から、毎週火曜日の午後にカンファレンスとラウンドを行っているとの補足があった。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：平成28年度の緩和ケアの状況として緩和ケア研修会受講は、がんに関わる医師が81.2%、2年目~5年目医師は79.4%である。緩和ケアスクリーニングについては2015年9月から開始した。回収のうち95%は外来患者である。介入に関しては他院と同じように少ない。課題としては一般のスタッフにはスクリーニングや方法、基本的な緩和ケアについて浸透していないと感じている。

寺嶋部会長から、スクリーニングシートを配布したことを共有しているのかとの質問があった。

町田委員から、緩和ケアリンクナースを通じて配布した方には気にしているため回収を行っている。まずは病棟で対応を行い、難しい場合にはチームに依頼を行うようにしているとの回答があった。

(徳島市民病院 渡辺委員)

別紙配布資料参照：緩和ケア病棟を24床設けているが、専従医師が確保出来ていないため施設基準を満たしていない。DPC適応の一般病棟と同じ扱いとなっている。稼働は5~6床となっている。空き病床には化学療法を行っている患者を受け入れている。また、退院の患者を受け入れる計画があるが、専従医師が確保出来ないことや主治医をどうするかなどの検討課題がある。

(徳島県立三好病院 寺嶋部会長)

安藤委員が急遽欠席となった。緩和ケア病床は20床あり、最高14床まで埋まった。平均患者数は7~8人ぐらいとなっている。平均在日数が24日程度である。推定人口が3万人程度であるためである。看取りは年間平均80人程度である。緩和ケアチームとしては一般病棟から緩和ケア病棟に移行されるまで関わっている。

(阿南中央病院 片山委員)

阿南医療センターは入札が遅れており契約には至っていない。センター化すると緩和ケア病床が15床の予定である。現在は一般病棟で12~13人程度で推移している。紹介して頂くのは徳島大学病院や徳島赤十字病院からが多く、全身状態が良ければ在宅に移行したいが積極的治療を止めるタイミングが難しいようで入院期間が長期化となっている。出来れば早めに紹介していただきたい。

(阿南共栄病院 平田氏)

平成28年度の緩和ケアへの新規依頼数は16名。介入数は毎月14~16人である。相談件数は月平均8件~10件で今年度は70件程度の相談があった。また、入院在日数が長くなる患者

さんが多いのが現状である。在宅に移行される患者さんには、訪問看護の方と同行している。スクリーニングシートに関しては未配布であり、がんサロン等で悩みや不安を聞いている。

(阿波病院 藤原委員)

昨年病院長を退き、嘱託であるが医師が少ないため緩和ケアについては担っている。積極的治療が終わった後のターミナルの患者さんの紹介が多い。緩和ケアチームはないが、カンファレンスは行っている。

(徳島県看護協会 郡委員)

徳島県看護協会としても緩和に関する研修会や講習など実施している。今年度は新人看護師対象に看取りのケアやジェネラリスト対象に終末期の緩和ケアやグリーフケアの研修会を開催した。また地域・在宅の緩和ケアの充実のために多職種と連携したり、退院調整看護師養成研修会を開催したりしている。研修の参加者も多く良い評価をいただいている。

(徳島県介護支援専門協会 福川委員)

別紙配布資料参照：平成28年度「在宅医療サポート介護専門員研修」の案内があった。介護支援専門員としては、昨今ではがん患者さんを含む非常に重症な患者さんの在宅支援が求められている。地域包括ケアシステムの構築として、我々の役割は専門職間の相互の理解と協同は介護専門員のケアマネジメントにかかっている。医療と介護連携を図るスキルを身につけていくためにも研修会を開催する。また、地域緩和ケア連携調整員研修にもぜひチームの一員として参加させていただきたい。

(徳島県歯科医師会 東山委員)

歯科医師会では、緩和ケアに特化した取り組みはまだ始まっていないが周術期の流れの中で緩和ケアについて講習会を行っている。

(徳島県医師会がん対策推進委員会緩和ケア対策小委員会 三木氏)

田岡病院では緩和ケアを細々としている。コンサルティング業務が主である。主科では緩和ケアをとっていない。

(近藤内科病院 荒瀬委員)

緩和ケア病棟をはじめ15年が過ぎる。去年度は死亡退院が約190人と異常に多かった。理由としては一時的に病床を26床にしたからで、現在は20床にしている。報告として平成28年1月～12月までの期間で退院患者数が188人、うち死亡退院149名。在宅に移行は28人、転院は11人である。紹介は大学病院58人、徳島赤十字病院51名、県立中央病院20人、徳島市民病院13人で約187名程度ある。最近では悪性リンパ腫など血液の患者さんが増えてきている。

○緩和ケア研修会報告について

寺嶋部会長から、今年度は徳島大学病院・徳島県立中央病院・徳島市民病院・徳島赤十字病院・徳島県立三好病院で緩和ケア研修会を開催した。がん診療連携拠点病院では、平成29年6月末までにはがん診療に携わる医師の90%以上の受講が求められているため各病院では苦勞をしている。徳島大学病院では90%以上に達成するよう今年度、院内医師対象に第2回目を開催する予定であるとの報告があった。

寺嶋部会長から、来年も緩和ケア研修会を行うが、精神症状担当で指導者の多田委員に

負担がかかるが意見はないかとの質問があった。

多田委員から、今年度徳島大学病院精神科神経科の医師が緩和ケア指導者研修会に1名参加する予定であるとの報告があった。

寺嶋部会長から、徳島県は単位制で行っている。来年度も今年度同様で行いたい。今年度の研修会で何か意見などないかとの質問があった。

片岡委員から、今年度徳島県立中央病院で開催時に初期臨床研修1年目の医師が含まれていた。希望があったため今回は受講していただいたが来年度はどのようにするのか決めていただきたい。また緩和ケア研修会の研修内容が時々バージョンアップされていたりする。その場合は、新しい内容にするのか検討いただきたいとの質問があった。

寺嶋部会長から、初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師が修了することとなっているが、今回は初期臨床研修1年目が数名含まれていた。この件について意見はないかとの質問があった。

郷委員から、カウントするためには1年目から受けていただくパーセンテージは上がるが、できれば2年目や後期で受講されると効果がある。しかし2年目は当直明けや日直等でなかなか受講が難しい。1年目でも緩和に興味があり希望があれば効果もあるため、受講率を上げるためには仕方がないのではないかと、また何度でも受講していただければいいのではないかと意見があった。

寺嶋部会長から、1年目の受講は好ましくないが、来年度の6月末までに90%以上の受講を達成するためには仕方がないかもしれないとの意見があった。

続けて寺嶋部会長から、研修内容のバージョンアップについては、講師は基本パターンを使用しスライドを追加するなどしている。担当する講師の方は自身の裁量で決めていただいてもかまわない。ただ、重大な改定点等があればメーリングリストで連絡をしていただきたいとの意見があった。

【協議事項】

○来年度の緩和ケアフォローアップ研修会について

寺嶋部会長から、来年度は徳島赤十字病院が5月28日6月11日で開催予定、徳島県立中央病院は6月～7月予定、徳島大学病院は7月中旬～8月中旬予定、徳島市民病院は8月末～9月予定、徳島県立三好病院は10月～11月予定である。日程が決まり次第連絡いただきたい。フォローアップ研修については例年通り徳島県医師会主催で来年度も1回開催予定であるとの報告があった。

○PDCAサイクルについて

寺嶋部会長から、緩和ケア推進にPDCAサイクルが求められている。徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会は2年前から取り組みを開始している。都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会でも全県での取り組みもみられる。他県では相互訪問や、ワークショップを行っている。徳島県としても緩和ケア部会でのPDCAサイクルをまわすために相互訪問を行ってはどうか。添付資料の案1，案2を作成した。案1についてはPCT集合研修、緩和ケアフォローアップ研修を兼ねる。ワークショップでお互いの活動や問題点などを開示共有する。案2については、PCT訪問で各病院間の視察訪問を行い、活動状況や自作パンフレット等の交換など行うとの意見があった。

荒瀬委員から、がん診療連携拠点病院ではないが他の緩和ケア病棟も視察を行いたいとの意見があった。

寺嶋部会長から、近藤内科病院と徳島県立三好病院とが交流を行ってもいいのではないかとの意見があった。

片岡委員から、訪問に行くにはいいが、受入は大変だと思う。内容等を詰めなくてはならない。緩和ケアチームの交流については案1なら日程調整で可能なため賛成であり、案2の訪問は難しいのではないかとの意見があった。

武知委員から、希望される施設同士で視察訪問を行ったらいいのではないか。フォローアップ研修を行うのであれば、せっかく緩和ケアチームのメンバーが集まる場のため、その中で必要な書類等持ち寄り相互間チェックを行い、報告を行えば合理的でいいのではないかとの意見があった。

寺嶋部会長から、訪問は行ってみたい気持ちがあるが、希望する施設があれば視察訪問を行いたい。また、実地研修の受入についても希望があれば、他院のスタッフ研修を受け入れたい。現在は徳島三好病院の認定看護師が徳島県立中央病院の緩和ケアチームの回診に参加する予定であるとの報告があった。

片山委員から、緩和ケアチームが活動する時間が定期的でないのであれば、カンファレンスに参加することから初めてはどうかとの意見があった。

寺嶋部会長から、カンファレンスのスケジュールや情報をオープンにして頂き、参加して頂きたいとの要望があった。

片山委員から、メーリングリストで送ってもいいのではないかとの意見があった。

荒瀬委員から、PCT研修は緩和ケアチームが対象なのか、院内の看護師から参加の希望があるが参加してもよいのかとの質問があった。

寺嶋部会長から、PCUの方も参加していただきたいとの回答があった。

郡委員から、医師対象の緩和ケア研修会を行ってPDCAサイクルを行っているが、医師以外の看護師や薬剤師等の研修会も部会として取り入れて欲しい。チーム医療なので、部会に薬剤師の委員が必要ではないかとの意見があった。

寺嶋部会長から、他職種も含めてPDCAサイクルを回していきたい。今回の会議での報告書が出来上がれば、メーリングリストで送りたいとの要望があった。

徳島大学病院尾形ジェネラルマネージャーから、別紙資料「平成28年度緩和に関する看護師研修会」の案内があった。今年度、都道府県がん診療連携拠点病院を対象としたがん看護に関する研修を企画・実施する指導者的立場にある看護師の研修に参加した。研修の中で、徳島県全体のがん看護の現状や課題を把握し、がん看護の課題解決や質向上のための研修を企画・実施することが求められた。今回は緩和について地域の看護師対象に研修会を実施することとなった。平成29年3月11日に開催するため、各施設の看護師の方に参加いただきたい。今後も定期的に研修を開催したいと考えているため、協力をお願いしたいとの依頼があった。

片山委員から、県内でELNEC-Jを開催しないのかとの質問があった。

郡委員から、県中主催でELNEC-Jの研修を3年前から行っている。指導者も順調に増えているとの回答があった。

寺嶋部会長から、特定非営利活動法人あわホームホスピス研究の五反田氏から「ミーツ・ザ・

暮らしのサポート活動」講演会の案内があったため、別紙資料で同封させていただいたとの報告があった。

片山委員から、第9回徳島がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会を平成29年1月14日(土)～15日に開催予定であるとの案内があった。

寺嶋部会長から、徳島がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会は、がんプロフェッショナル養成プランで開催している。今年度で事業は終了するが、来年度予算が計上出来れば引き続き開催が可能である。ぜひ、興味がある方は参加いただきたいとの補足があった。

鎌村委員から、平成24年度から平成28年度までの5年間を対象とした、がん対策推進計画と徳島県の第6次の医療計画の最終年度となっている。いずれも改定となっている。PDCAサイクルも国から言われており、計画書だけで終わらないように現場の声を反映させて実行をしていただきたいとの依頼があった。

寺嶋部会長から、閉会の言葉があり閉会となった。